

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは「深刻な干ばつ アメリカ編」

アメリカでも深刻な干ばつで、ミシシッピ川の穀物輸送に影響が出ている。アメリカ中西部を含むグレートプレーンズや西海岸での干ばつが深刻で、河川の水運量が半減する地域も出ている。既に穀物輸送に影響を及ぼしている模様だ。

中西部のいくつかの地域では、ここ数年にわたって干ばつが続いており、特にミズーリ川流域とグレートプレーンズが深刻な状況だ。この影響で現在、ミシシッピ川とその支流のミズーリ川、オハイオ川の水位が記録的な低さとなっている。

水位の減少で、船は座礁を避けるため積荷量の減少や交通を制限されるなどの影響を受けており、中西部河川の水運量はほぼ半減している。11月もミズーリ州などの中西部で平均以下の降雨量になる可能性が高い。(10月時の予想)

USDA チーフエコノミストの気象学者ブラッド・リップペイ氏によると、この時期は、とうもろこしなどがミシシッピ川河口のニューオリンズ港から輸出される時期で、アメリカ産穀物の約60%がこの港を経由して輸出される。しかし、干ばつの影響で「河川輸送は45~50%減少する見通しであり、河川の水位が上がるまで穀物はサイロや駐車場に積み上げられるか、トラックや鉄道で出荷されることになる。いずれも時間がかかり効率も悪くなる」という。

10月30日時点で、とうもろこしの収穫は7割程度(全米平均)に留まる。今後も収穫は続くが、このまま穀物輸送が滞るととうもろこしの供給に遅れが生じ、国際市場への影響も必至だ。実際、日本のとうもろこし輸入額はアメリカ産が約7割を占めていることから、畜産向け飼料などの供給にも影響が出る可能性がある。(米麦日報より一部抜粋)